



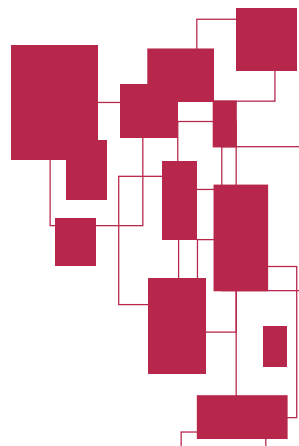
佐藤美枝子 © Akira Muto

林美智子 © Toru Hiraiwa

望月哲也

黒田 博

河原忠之 © K.Miura



FOCUS

1.13 [土] 河原忠之の《水戸 de Opera!》Vol.1 プッチーニ vs ヴェルディ 新春の水戸芸術館はオペラの華やぎとともに幕を開けます!

文 関根哲也

河原忠之さんからのメッセージ

新年早々のこのおめでたい時期に、水戸芸術館に伺えることはとても喜ばしいことです。水戸芸術館には、何度かお伺いしていますが、IL DEU (イル・デーヴ) として伺った時の公演は忘れられません。IL DEU で各地のホールに伺う時はとても皆様温かく、そしてケータリングにとっても気を遣っていただきます(笑)。水戸芸術館に伺った時はとても美味しい鰻でした。あの味は本当に忘れられません。そしてホールの方々が、優しく見守って頂いた事も、今は素晴らしい思い出として心に残っています。

さて、来年1月は僕の今のイチオシの歌手に集まっていたき、イタリア歌曲と、イタリア・オペラのハイライトを聴いていただきます。題して、《プッチーニ vs ヴェルディ》。このイタリア・オペラの巨匠2人の曲に、聴きどころ満載のロッシーニのアンサンブルを加え、思う存分イタリア音楽を味わっていただきます。

ソプラノは僕が最も信頼を寄せている佐藤美枝子さん、メゾ・ソプラノは最近特に素晴らしいコンサートをご一緒している林美智子さん。この素晴らしいプリマドンナ2人を支える男性は、わが IL DEU よりテノールの望月哲也、名実ともにバリトンの第一人者・黒田博さん。

東京でもなかなか聴けない出演者と曲目に、僕がわかりやすい解説をしながらオペラの魅力をたっぷりとお届けいたします。このコンサートを聴き逃す手はあ

りません。皆さま新年の幕開けに、どうか水戸芸術館にいらしていただければと思います。

——河原忠之

ひさびさのオペラ新企画

オペラには、明るいエンターテインメント性、美声に酔いしれる贅沢さ、そして非日常的な華やぎが必要だと、昨年(2016年)4月の「ちょっとお昼にクラシック IL DEU (イル・デーヴ)」公演の時にあらためて感じました。そして、その豊富な「引き出し」からオペラのエッセンスをギュッとまとめ、日本を代表する一流の歌手とともにオペラの楽しさを余すところなく伝えられる人は河原忠之さんをおいて他にいないのではないか、と思いました。

河原忠之さんは、知る人ぞ知る、オペラのスペシャリストです。本場イタリアでコレベティトゥール(オペラの稽古において、伴奏するだけでなく、発声法や発音、また演唱上の要点を歌手にアドバイスするピアニスト。その存在がオペラ上演の成否を左右するといっても過言ではありません)を務め、数々のオペラに精通。日本に帰国してからも、一流の歌手たちから圧倒的な信頼を得、共演のオファーが後を絶たないピアニストです。

水戸芸術館でしか聴けない楽しい内容

その河原さんが自信をもってお届け

するのが《水戸 de Opera!》です。第1回は「プッチーニ vs ヴェルディ」と題し、イタリア・オペラの二大巨匠のオペラ・ハイライトを中心にお届けします。プッチーニ《ラ・ボエーム》のキャストのところに、「ミミ：林美智子」と記載されていますが、誤植ではありません。我が国を代表するメゾ・ソプラノの一人、林美智子さんにとって、ソプラノ役のミミを歌うことは念願だったそうです。ムゼッタ役に回る佐藤美枝子さんの歌唱ともども、一般の上演では聴くことのできない貴重な機会となります。お楽しみに!

その他、マスカーニの歌曲やロッシーニの重唱曲など、イタリアの歌の魅力に存分に浸れること、間違いなし! どうぞご期待ください。

河原忠之の《水戸 de Opera!》 1/13 (土) 16:00 開演 (15:30 開場)

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 一般 4,000 円

ユース (25 歳以下) 1,500 円

出演 佐藤美枝子 (ソプラノ)
林美智子 (メゾ・ソプラノ)
望月哲也 (テノール)
黒田博 (バリトン)

曲目 プッチーニ：《ラ・ボエーム》より
第1幕 ミミとロドルフォの二重唱
“愛らしい乙女よ”
第3幕 四重唱 “さらば甘い目覚めよ”
ヴェルディ：《リゴレット》より
第1幕 ジルダとリゴレットの二重唱
“娘よ! ... お父様!”
第3幕 四重唱 “美しい愛らしい娘よ”
ほか

2.25 藤村実穂子 メゾ・ソプラノ・リサイタル

藤村実穂子さんからの寄稿掲載！思い出の地でのリサイタルに向けて 文 関根哲也



水戸室内管弦楽団第100回定期演奏会より

小澤征爾さんと水戸芸術館の個人的な思い出

高校生の頃、小澤征爾さんの「僕の音楽武者修行」が放送になるというので、家族でテレビの前に集まり録画をしながら見た。世の中には日本人でありながら海外で、しかも海外の音楽で成功する人がいるんだと、眼で知る良い機会だった。

やがて芸大に合格し東京暮らしが始まった。ヘルマン・プライさんが来日して歌曲の夕べを開くというので、東京と水戸芸術館でのチケットを買い車で水戸まで走った。

時は随分経ったけれど、今でも私の部屋の入り口には繰り返し見過ぎてヘロヘロになった「僕の音楽武者修行」と書いたVHSカセットが置いてある。「その」小澤征爾さんと初めて共演させて頂く事となった。しかも思い出の水戸芸術館で、である。

ご一緒させて頂いて分かったのだけれど、小澤さんの指揮はとてよく喋る。しかも命令形でなく「ねえ、こうしようよ」「ここ、こうしない？」といった、お誘いである。お客さんとの距離が近い水戸芸術館で、360度開放された小澤さんの世界へと、客席も舞台も関係なくそこにいる皆が誘われ、世界を共有するうちに、ふと涙していた。それは感傷でなく、極めて劇的な感動の大嵐でもない。海辺に独りで座していると干潮だったのが、知らないうちに満潮になり足元が濡れていた。そんな、今までにない体験だった。

私にとって歌曲はいつも特別だった。歌手の小宇宙だと思っている。個人的

な思い出が詰まった水戸芸術館で、客席の皆様と何かを共有出来たら、と、今から楽しみにしている。

——藤村実穂子

藤村実穂子さんと小澤征爾さん、水戸芸術館

藤村実穂子さんが、水戸芸術館開館の年（1990年）の11月に、今は亡き20世紀の名バリトン歌手ヘルマン・プライ氏のリサイタルにいらしていたとは…。これまで、いろいろなお話はしていてもこれは初耳で、とても驚きました。

しかし、今回お寄せいただいた藤村さんのことばによって、想像できたことがあります。藤村さんに10月の水戸室内管弦楽団第100回定期演奏会〈第九〉の出演依頼をしたとき、マネージャーの最初の返答は「ワーグナーのオペラの仕事が入っていて難しい」というものでした。しかし、その後、「藤村さんが指揮者や演出家とかけあい、出演できるように調整した」という連絡が来ました。かなりの無理をしてまで出演された意味…。（実際、日曜日の終演後は誰よりも早くホールを後にし、羽田空港に向かわれました。）

藤村さんは、心のある場所を占めていた「小澤征爾さん」と「水戸芸術館」という存在を、ご自身の仕事という現実の中で、一つに結びたいとお考えになったのではないのでしょうか。

小澤さん、藤村さんをはじめ、第一線で活躍している歌手と演奏家、そして客席に集った聴衆の皆さんが一致協力して作り上げた比類なき〈第九〉が鳴り響いた今、藤村さんの「水戸」を核とする物語は、リサイタルによってクライマックスを迎えようとしています。

ドイツ歌曲によるリサイタル

ヘルマン・プライがシューベルトの〈冬の旅〉を歌った水戸芸術館で、藤村実穂子さんはシューベルトも含むドイツ歌曲をプログラミングしました。

藤村さんは、東京芸術大学大学院修

了後、名バリトン歌手ハンス・ホッター氏のマスタークラスを受講したことをきっかけにミュンヘンに留学。2000年にはウィーン国立歌劇場〈トリスタンとイゾルデ〉に出演。2002年、バイロイト音楽祭にデビュー。さらに、その直前、バイエルン州立歌劇場の〈ワルキューレ〉にも急遽代役で出演し、国際的な注目を浴びました。

ワーグナーの“聖地”と呼ばれるバイロイト音楽祭には、その後毎年のように出演し、“世界最高のメゾ”と高く評価されたほか、ティーレマン、ハイティンク、メータといった世界一流の指揮者からも厚い信頼を得ています。2014年1月に亡くなったクラウディオ・アバドもその一人で、2013年夏にはルツェルン音楽祭でシェーンベルク〈グレの歌〉を共演しています。（藤村さんは「アバドが最後に共演したソリスト」となりました。）

主にドイツ系のオペラや声楽曲で高く評価されている藤村さん。リサイタルで力を注いでいるのは、もちろんドイツ歌曲です。今回、シューベルト、ワーグナー、ブラームス、マーラーというプログラムで、その神髄を聴かせてくれることでしょう。

ピアノは、藤村さんが心から信頼を寄せているヴォルフラム・リーガーさん。リーガーさんは、先述のホッター氏のマスタークラスの時のピアニストでもあったと言いますから、四半世紀以上の長きにわたって藤村さんの歌を支えて続けていることになります。歌とピアノが一体となった心に響く歌を、お二人は届けてくれるに違いありません。

藤村実穂子 メゾ・ソプラノ・リサイタル
ピアノ：ヴォルフラム・リーガー

2/25 (日) 15:00 開場 (15:30 開演)

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM

全席指定 一般 4,000 円

ユース (25 歳以下) 1,500 円

曲目 シューベルト：糸を紡ぐグレートヘン D118

ワーグナー：ヴェーゼンドンクの詩による歌曲

ブラームス：私の愛は緑 作品 63 の 5

マーラー：リュッケルトの詩による歌曲 ほか

2.1 木 ちょっとお昼にクラシック

心を打つ、体に響くパーカッション！

文 中村 晃

気軽にランチタイムにお楽しみいただく「ちょっとお昼にクラシック」シリーズ。今回の出演は、水戸室内管弦楽団のゲスト・ティンパニ奏者として出演を重ねる才人・竹島悟史さん。お馴染みの名曲揃いのプログラムで、マリンバを中心とする打楽器の演奏をお届けします。共演はチェロの市寛也さんとピアノの森浩司さんです。

竹島悟史さんインタビュー

——竹島さんはどのようなきっかけで打楽器奏者になられたのですか。

4歳のころから、ヤマハ音楽教室でピアノやエレクトーン、作曲を学び、少年ながら心から音楽を楽しんでいました。そして、きっと自分はこのままピアノか作曲で音楽大学に行くだろうと、その準備を進めていました。

15歳の時に、オーケストラを想定した曲を作り、自分と友達との2台のエレクトーンで弦楽器管楽器の音を担当し、4つの打楽器パートは、プロの打楽器奏者の方々に演奏していただきました。その曲で一年ほど数多くの演奏会に出演させていただく中で、15歳の若造が書いた音符を、一生懸命心を込めて演奏してくださるプロの打楽器奏者の方々に深く感銘を受け、自分も「そちら側がいい!!」と一気に惚れ込み、打楽器奏者になる夢を強く持つようになりました。ピアノや作曲の勉強もかなり進んでいた時期だったので、正直周囲からの反対も多くありましたが、まさに恋は盲目でした。打楽器の本格的なレッスンを受け始めたのは17歳になる直前のことでしたが、それから必死に練習して、一年間の浪人の後、東京藝術大学の器楽科打楽器専攻に入学しました。

その受験に向かう頃から大学に入って一年くらいまでは、ピアノや作曲から意識的に離れていましたが、方法はともあれ「音楽」を楽しみたいと思い、また徐々に距離が縮まり、「打楽器が柱ではあるけれど、ピアノも作編曲もしよう!!」という今のスタイルになりました。

——打楽器の魅力についてお聞かせください。

打楽器奏者は、限らない数と種類の楽器を扱います。ティンパニ、シンバル、大太鼓、小太鼓、トライアングル、タンバリン、カスターネット、木琴、鉄琴などはもちろん、各種民族楽器も多様ですし、空き缶や植木鉢を叩く、紙やすりをこする、新聞紙を振ったり揉んだり、警笛や鳥笛を吹いたり...オーケストラにいても「打楽器演奏」という範疇からはみ出るような様々なことを要求されます。打楽器は、「叩く」

「振る」「こする」など簡単な動作で音を出すことが出来るのが魅力ですが、その単純な動作から、いかにその音楽にマッチする音を生み出すかが、とても難しく面白いところです。

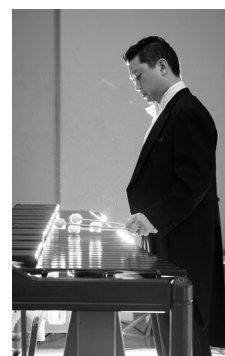
先にお話したような、数え切れないくらいたくさんの「楽器＝物」を扱えるという楽しさよりも、それらを使っていかに音楽に花を添えるか、色彩を加えるか、というのが、僕の根底にあるテーマです。畳三枚分くらいの薄い鉄板を吊って揺らすと、雷のような音がしますが、「鉄板を揺らす」という動作が上手く出来たとしても、出ている音が雷に聞こえなければ意味がありません。数限りなく多種多様な「楽器＝物」を扱う打楽器奏者としては、それらからどのような音を生み出すのが最重要であり、作業の「方法」について、ルールは無いと思っています。ちょっとイライラしたお母さんのキャベツの千切りって、音でわかりますよね？ほろ酔い上機嫌のお父さんの玄関を閉める音、わかりますよね？

——なるほど、日常の単純な動作の中でさえ、豊かな打楽器的な表現が息づいているのですね。ところで、竹島さんは打楽器奏者としてばかりでなく、様々な音楽活動をされていますが、そのご活動についてお話しください。

まず、打楽器奏者として、NHK交響楽団というオーケストラに在籍しながら、小澤征爾さんのサイトウ・キネン・オーケストラ(セイジ・オザワ・マツモトフェスティバル)や水戸室内管弦楽団、その他打楽器が加わる様々なアンサンブルなどに、数多く参加させていただいております。場はどこであれ、素敵な仲間と共に音を作るのは至極の幸せです。打楽器ソロの場も時々あり、打楽器主体で生まれる音楽を発信できることに、緊張感と喜びを感じながら臨んでいます。

また、昔取った杵柄で、ピアニスト、作編曲家としての活動もあり、嬉しい悲鳴を上げる毎日です。特に今は、NHK交響楽団の他の楽器の仲間から、例えば小編成の公演の際に、「この曲のピアノ伴奏をしてくれないかな?」「この公演に、一曲作曲してくれないかな?」「この曲をこの楽器編成用に編曲してくれないかな?」と依頼されることが多いです。普段、オーケストラの場で共に繊細な音作りをしている仲間なので、とにもかくにもお互いをよく知っているんですね。だから竹島に頼もうと思ってくれる仲間の気持ちもありがたいですし、僕も、伴奏する相手、書く相手がわかっていだけに、一歩二歩深く進んだところで音作りが出来るのが、とても楽しいです。両

立は大変ですが、仲間と一生懸命楽しむことが何よりの喜びなので、僕に出来ることであれば何でもやるぜ!!というスタンスですね。



——今回の演奏会について、聴き

どころや共演者などについて教えてください。

まず打楽器については、マリンバという横幅3メートルくらい大きな木琴を主に使用します。いわゆる木琴のコロコロした可愛らしい音から、深くあたたかい音まで、様々な音色を持つマリンバの魅力を存分にお楽しみいただきたいと思います。また、小太鼓やシンバルなど、他の打楽器も少しご紹介させていただきます。

今回の公演に協力してくれる仲間をご紹介します。チェロの市寛也くんは、NHK交響楽団と一緒に切磋琢磨する仲間です。チェロという豊かでありながら少し気難しさをも思わせる楽器を明るく笑顔で操る彼は、とてもあたたかく真摯に音楽に立ち向かう、気さくな音楽家です。ピアノの森浩司くんは、幼少時代からのヤマハ音楽教室の同窓生です。アンサンブルが大好きで、まず誰か何かと一緒に音を作ろうと紡ぐ音色は、様々な食材とくっついて調和する、モチモチした何かのようです。この二人と共に、一生懸命楽しい時間を作りたいと思っています。目指すは特上幕の内弁当。色々な美味しさをちょっとずつたくさん...。短い時間ですが、お楽しみいただけたら幸いです。是非遊びにいらしてください!!

——ありがとうございました。

ちょっとお昼にクラシック 心を打つ、体に響くパーカッション！

2/1 (木) 13:30 開演 (終演予定 14:30 頃)

会場：水戸芸術館コンサートホール ATM
全席指定 1,500円 (1ドリンク付)

出演 竹島悟史 (マリンバ他、パーカッション)
市 寛也 (チェロ)
森 浩司 (ピアノ)

曲目 ハチャトゥリャン：剣の舞
モンティ：チャールダッシュ
サン＝サーンス：
《動物の謝肉祭》より「白鳥」
フーバー：クラッシュ・ミュージック
ノヴォトニー：ア・ミニット・オブ・ニュース
ほか

2.4日 合唱セミナー 2018 講師：新実徳英

広く親しまれる曲を数々生み出す作曲家が自作を解説、そして指導

文 篠田大基

合唱団に入っている人も、入っていないけれど合唱に興味がある人も、一緒に歌ったり、講師のレクチャーを聴いたり、講習を通じて合唱がもっと面白くなる、音楽の理解がより深まる——そんな1日が「合唱セミナー」です。

今回の講師には作曲家の新実徳英さんをお迎えします。水戸芸術館の合唱セミナーには、2002年と2011年に次いで今回が3度目の登場です。新実さんは管弦楽や室内楽の様々な作品で高い評価を獲得する一方、合唱作品にも積極的に取り組んでおり、多くの作品が知られています。特に過去2回のセミナーで扱われた

〈白いうた 青いうた〉は幅広い年齢層に親しまれている新実さんの代表作と言えるでしょう。

今回のセミナーでは、1978～1982年に作られた比較的初期の曲集「川崎洋の詩による五つの混声合唱曲〈やさしい魚〉」を取り上げます。変拍子、裏打ちのリズム、半音の動き、など歌いこなすには練習が必要な部分もありますが、ナチュラルな旋律やハーモニーの美しさは、多くの人に愛される曲を数々生み出す新実さんならではの、とも感じられます。作曲家自身の解説と指導で作品を歌う貴重な機会に、ぜひ多くの方にご参加いただければ幸いです。

合唱セミナー 2018

2/4 (日) 10:00 開始 (9:45 開場)
16:00 終了予定

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
参加チケット代 一般 1,000 円、高校生 500 円、
中学生以下 300 円

講師 新実徳英 (作曲家)

ピアノ 田中直子

講習曲 新実徳英：川崎洋の詩による五つの混声合唱曲〈やさしい魚〉全5曲

※楽譜は各自でご用意ください。水戸芸術館ミュージアムショップ「コントロール」でも扱っております。女声合唱版、男声合唱版をお持ちの方も混声合唱版をご購入ください。

2.10日 高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート 水戸室内管弦楽団ゆかりの演奏家たちが高校生にレッスン

文 篠田大基

茨城県との連携により開催してきた「高校生のための水戸室内管弦楽団(MCO)メンバーによる公開レッスン」。今年度2回目のレッスンを2月10日に水戸芸術館で開催します。今回は、これまでも行ってきた大編成吹奏楽団の全体合奏のレッスンに加えて、木管楽器、金管楽器それぞれの室内楽アンサンブルのレッスンも行います。受講するのは、茨城高等学校吹奏楽部(全体合奏と金管五重奏)と大成女子高等学校吹奏楽部(フルート三重奏)の2校、3グループ。講師陣は、MCO楽団員代表の猶井正幸さんをはじめ、岩佐和弘さん(フルート)、

南方総子さん(オーボエ)、四戸世紀さん(クラリネット)、若林万里子さん(トランペット)、新田幹男さん(トロンボーン)、望月岳彦さん(打楽器)という7名。いずれもMCOに数多く参加している管楽器、打楽器の卓越した演奏家たちです。そして今回も、公開レッスンの後には恒例の講師によるミニコンサートもございます。高校生だけでなく一般の方も無料(要入場券)でお聴きいただけます。頑張る高校生たちの応援に、講師たちのソロ演奏やアンサンブル(MCOの定期演奏会では聴けません!)を楽しみに、ぜひいらしてください。

高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート

2/10 (土) 14:30 開始 (14:00 開場)

会場 水戸芸術館コンサートホール ATM
入場無料(要入場券)
入場券配布場所 水戸芸術館、茨城県立県民文化センター、ノバホール

受講団体 茨城高等学校吹奏楽部(全体合奏と金管五重奏)、大成女子高等学校吹奏楽部(フルート三重奏)

講師 岩佐和弘(フルート)、南方総子(オーボエ)、四戸世紀(クラリネット)、猶井正幸(ホルン)、若林万里子(トランペット)、新田幹男(トロンボーン)、望月岳彦(打楽器)

講習曲 フランク(リード編曲)：天使の糧、天野正道：キラキラ星変奏曲(以上全体合奏)、チェスノコフ：《妖精の絵》作品40より(フルート三重奏)、坂井真祐：3つの情景(金管五重奏)

1.8月・祝 パイプオルガン・プロムナード・コンサート 新春スペシャル(13:00 開演) 2018年の幕開けに、華々しいオルガンを

文 鴻巣俊博

水戸芸術館で新年最初の演奏会となる「パイプオルガン・プロムナード・コンサート 新春スペシャル」は、ブクステフーデ国際オルガンコンクール優勝、「ブラハの春」国際音楽コンクール・オルガン部門第3位など輝かしい受賞歴を持つ注目の若手オルガニスト、大木麻理さんの演奏をお楽しみいただきます。大木さんは東京藝大在学中より「プロムナード・コンサート」に何

度もご出演いただいております。今回は2015年以来約2年ぶりの登場となります。合唱曲として馴染みのヘンデル作曲《メサイア》の〈ハレルヤ〉や、J.S. バッハの〈シャコンヌ〉(ラントマン編曲)など、バロック音楽を中心とした45分のコンサート。2018年の“コンサート初め”に、華やかなオルガンの音色を堪能してはいかがでしょうか。



大木麻理

1.27 第3回 茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート (会場：常陽藝文ホール)

茨城の名手・名歌手たちの新春スペシャル・コンサート

文 篠田大基

「茨城の名手・名歌手たち」オーディションに合格した注目の演奏家を紹介する「茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート」は、常陽銀行のご後援、常陽藝文センターとの共催で、常陽藝文ホールを会場に開催しています。1月27日の第3回コンサートは新春に因んで「慶賀」をキーワードに、晴れやかで華々しい音楽をプログラムに織り込んでお贈りします。出演は、バリトンの飯村泰志さん(2016年第26回合格)、ソプラノの柿長飛鳥さん(2014年第24回合格)、ピアノの浜口夏生さん(2015年第25

回合格)。過去2回のコンサートでは異なる楽器を選んでプログラムを組み立てましたが、今回は歌とピアノの世界をたっぷりお聴きいただきます。ドラマティックに心を揺さぶるオペラ・アリアや名歌曲、鍵盤から生まれる鮮烈なハーモニー、美しいメロディ……。華麗な音の饗宴をどうぞお楽しみに！ 水戸芸術館友の会や財団運営維持会員の皆様、藝文友の会会員、学生の方は事前のお申し込みで無料でお聴きいただけます(一般の方は1,000円)。皆様のご来場をお待ちしております。

第3回 茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート —慶賀 Celebration—

1/27 (土) 14:00 開場 14:30 開演

会場 常陽藝文ホール(水戸市三の丸1-5-18)
全席自由(要事前申込) 一般1,000円
水戸市芸術振興財団運営維持会員、水戸芸術館友の会、藝文友の会会員、学生は無料
申込先 常陽藝文センター TEL 029-231-6611
12/8(金) 10:00 受付開始
出演 飯村泰志(バリトン)、岩脇由布子(ピアノ)、柿長飛鳥(ソプラノ)、磯野舞(ピアノ)、浜口夏生(ピアノ)

2017.11.12

アンサンブル奏 コンサート

日立市を拠点に活動している木管五重奏とピアノという編成の「アンサンブル奏」が、水戸芸術館では3回目となるコンサートを開催しました。「巴里の空の下で」というシリーズの続編で、ルーセル〈ディヴェルティスマン〉、ビゼー〈カルメン組曲〉、プーランク〈六重奏曲〉など近代フランスの魅力的なレパートリーが取り上げられ、息の合ったアンサンブルで聴衆を魅了しました。アンコールは、フォーレ：組曲〈ドリー〉より子守歌と〈リンゴ追分〉。《関根》アンケートから■とてもきれいな音、音楽に癒されました。すばらしい時間をありがとうございました。また「奏」の演奏を聴きに来ます。(笠間市の方) ■曲の解説があってわかりやすく、イメージを創りながら演奏を楽しむことができた。3回ものお色直しにびっくり、素敵でした。(日立市の方) ■〈カルメン組曲〉以外、知らない曲ばかりだったが、一つ一つの楽器の音色を味わえた。(水戸市：S.U.さん)

2017.11.18

中学校合唱の祭典 ～芸術館で歌おう～

水戸市立中学校および義務教育学校で実施される合唱コンクールで学校代表に選ばれたクラスが水戸芸術館に一堂に会し、その成果を披露する「中学校合唱の祭典」(水戸市教育委員会、中学校合唱の祭典実行委員会との共催)。今年も全16校の代表クラスが参加しました。この公演では、順位や優劣はつけません。様々な表現や価値観が共存し合うのが、芸術の世界の素晴らしさなのであり、参加する生徒たちには、そうした精神に触れていただきたいと思います

います。舞台に立って合唱を発表する生徒に加えて、影の主演と言えるのが、各校から1名ずつ、プロジェクト委員に選ばれた生徒たちです。ちらし、プログラムや看板の製作、演出プランの作成、そして当日の司会・運営など、公演実施のために必要なあらゆる業務を受け持ちました。茨城出身のソプラノ歌手・小泉恵子さんがゲスト出演。小泉さんは、ことばを大切にしたい清々しい演奏に感動した等と講評し、〈風をみたひと〉(作詩：クリスティナ・ロゼッティ、訳詞：木島始、作曲：木下牧子)を披露しました。《中村》

2017.11.19

千葉博美 ピアノ・リサイタル

ハンガリーで研鑽を積んだ水戸在住のピアニスト・千葉博美さんによる、当館では初のリサイタル。第1部はシューベルト〈即興曲〉D935、ベートーヴェン〈ピアノ・ソナタ 第23番《熱情》〉などのピアノ・ソロ。第2部は千葉さんと同時期にハンガリーに留学されたヴァイオリニストの加藤菜津子さんをゲストに迎え、ラヴェル〈ツィガーヌ〉やバルトーク〈ルーマニア民俗舞曲〉など、作曲当時ハンガリー王国だった土地や、ロマ民族の音楽に刺激を受けて書かれた名曲の数々が熱演されました。《鴻巣》アンケートから■聴きなれた曲からそうでない曲まで、ハンガリーの魅力を存分に楽しめました。(水戸市の方) ■第1部のピアノ・ソロは、内に秘める熱い情熱が見え隠れし、見事でした。第2部は息の合った2人の表現力豊かな演奏、哀愁漂うヴァイオリンの音色がとても良かったです。(茨城町の方)

最近の公演から



1：アンサンブル奏コンサート 巴里の空の下で vol.3

2：千葉博美ピアノ・リサイタル
～ハンガリーを愛した作曲家たち～

3-4：合唱の祭典 ～芸術館で歌おう～

0歳からの わくわくオルガン・コンサート 参加者募集！

赤ちゃんから楽しめる音楽会をおこないます！小型オルガンは、どんな音がするのかな？舞台の上で、音色をきいたり簡単な楽器を作ったりして、楽しいひとときを過ごしましょう♪
 [開催日] 2018年3月23日(金)10:30～13:30～、24日(土)10:30～
 [会場] 水戸芸術館コンサートホールATM
 [対象] 0歳～小学校入学前のお子さまと保護者
 [参加費] 子ども500円、大人1,000円
 [出演] 浅井美紀 [定員] 各回12組(先着順)
 [申込み受付] 1/26(金)10:00～、お電話でお申込みください。
 [申込み先・お問合せ] 水戸芸術館音楽部門 TEL.029-227-8118 (10:00～18:00[月曜休館])
 ※お申込み前に、ウェブやチラシで詳細をご確認ください。

チケット・インフォメーション

《12月16日(土)発売分》

■ちょっとお昼にクラシック 心を打つ、体に響くパーカッション！
 2018年2/1(木)13:30開演
 料金[全席指定] ¥1,500(1ドリンク付き)
 ■茨城笛の会 第38回日本フルトフェスティバル in 茨城
 2018年3/11(日)14:00開演
 料金[全席自由] 一般 ¥2,000(前売り ¥1,800) / 高校生以下 ¥500
 ■マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル
 2018年3/25(日)15:00開演
 料金[全席指定] A席 ¥10,000 / B席 ¥8,500 / ユース(25歳以下) ¥3,500
 《1月27日(土)発売分》
 ■レ・ヴァン・フランセ
 2018年4/25(水)19:00開演
 料金[全席指定] A席 ¥5,000 / B席 ¥4,000 / ユース(25歳以下) ¥2,000

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
 中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
 ◎新ダヴィッド同盟 第5回演奏会
 ……12/17(日)中央×、左右・裏△、補助△
 ◎クリスマス・プレゼント・コンサート 2017
 ……12/23(土・祝)中央△、左右○
 ◎河原忠之の《水戸 de Opera》！
 ……2018年1/13(土)中央△、左右○
 ◎合唱セミナー 2018(講師：新実徳英) ……2018年2/4(日)自由席○
 ◎藤村実穂子 メゾ・ソプラノ・リサイタル
 ……2018年2/25(日)中央△、左右○
 ※11/23(木)現在の状況です。 ※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な1・2月のスケジュール

コンサートホールATM

■河原忠之の《水戸 de Opera》！
 2018年1/13(土)16:00開演
 料金[全席指定] 一般 ¥4,000 / ユース(25歳以下) ¥1,500
 ■ちょっとお昼にクラシック 心を打つ、体に響くパーカッション！
 2018年2/1(木)13:30開演
 料金[全席指定] ¥1,500(1ドリンク付き)
 ■合唱セミナー 2018(講師：新実徳英)
 2018年2/4(日)10:00開始(16:00終了予定)
 参加費[全席自由] 一般 ¥1,000 / 高校生 ¥500 / 中学生以下 ¥300
 ※別途、楽譜代が必要です。
 ■高校生のための水戸室内管弦楽団メンバーによる公開レッスン&ミニコンサート
 2018年2/10(土)14:30開始 入場無料(要入場券)
 入場券配布開始：12/16(土)
 入場券配布場所：水戸芸術館、茨城県立県民文化センター、ノバホール

■伝統芸能のススメ[落語] 立川志の輔独演会
 2018年2/15(木)18:30開演
 料金[全席指定] S席 ¥3,500 / A席 ¥3,000
 ■第16回大手橋プラム・コンサート
 2018年2/17(土)13:00開演 入場無料[全席自由]
 ■藤村実穂子 メゾ・ソプラノ・リサイタル
 2018年2/25(日)15:00開演
 料金[全席指定] 一般 ¥4,000 / ユース(25歳以下) ¥1,500
 ■水戸市内小学校 東関東吹奏楽コンクール出場記念演奏会
 □2018年1/21(日)11:00開演 酒門小学校
 □2018年2/11(日)11:00開演 新荘小学校 / 15:00開演 三の丸小学校
 □2018年2/12(月・振)15:00開演 笠原小学校
 入場無料[全席自由]

エントランスホール

■パイプオルガン プロムナード・コンサート (入場無料)
 □2018年1/8(月・祝)《新春スペシャル》大木麻理 13:00～(45分程度)
 □2018年1/14(日)安井歩、江戸春乃(フルート)、20(土)山司恵莉子、
 2/11(日)阿部翠、24(土)千田寧子
 各日12:00～13:30～(各回30分程度) ※2/11(土)は13:00～(45分程度)

ACM 劇場

■伝統芸能のススメ[落語] 柳家さん喬独演会
 2018年2/18(日)14:00開演
 料金[全席指定] S席 ¥3,500 / A席 ¥3,000 / B席 ¥2,500
 ■平成29年度「朗読スタジオ」発表公演『声のギャラリー』
 2018年2/25(日)午前の部11:00開演 / 午後の部15:00開演
 料金[全席指定] ¥500
 ※出演者が異なる二部制のため、各回入れ替え制となります。

現代美術ギャラリー

■デイヴィッド・シュリグリー「ルーズ・ユア・マインドーようこそダークなせかいへ」
 10/14(土)～2018年1/21(日)9:30～18:00 ※入場は17:30まで
 [休館日] 月曜日、年末年始12/27(水)～2018年1/3(水)
 ※ただし1/8(月・祝)は開館、翌1/9(火)休館
 [入場料] 一般 ¥800 / 前売り・団体(20名以上) ¥600
 ※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料
 ■ハロー・ワールド
 2018年2/10(土)～5/6(日)9:30～18:00 ※入場は17:30まで
 [休館日] 月曜日
 ※ただし2/12(月・祝)、4/30(月・祝)は開館、翌2/13(火)、5/1(火)は休館
 [入場料] 一般 ¥800 / 前売り・団体(20名以上) ¥600
 ※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

水戸の主な1・2月の演奏会

■常陽藝文センター(常陽藝文ホール) TEL / 029(231)6611
 ・第3回 茨城の名手・名歌手たち 藝文コンサート 2018年1/27(土)14:30開演
 (水戸芸術館友の会[一般・法人]、財団運営維持委員会および藝文友の会会員と学生は無料)

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000
 営業時間：9:30～18:00(月曜休館)
 公演内容や企画に関するお問い合わせ
 水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118
 ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>
 公式ブログ <http://blog.arttowermito.or.jp/staff/>
 ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場
 @ConcertHall_ATM @art_tower_mito
 www.facebook.com/arttowermito

編集後記

う さぎを飼ってわかった、感情表現の豊かさ。機嫌が悪いと鼻を「ブー」と鳴らすのですが、最近私は何につけても「ブ」「ブー」とやられます。撫でるのを止めると「ブ」。ゴハンをあけても「ブー」。私だけになぜ…(り)

冬 と言えば鍋!!先日、(り)さん(鴻)さん達と鍋パーティー&かるた大会をしました。超王道のキムチ鍋でしたが、それぞれの家庭によって具材も味付けも様々で。新たな美味しい発見があった鍋パーティーでした。(咲)

い いよいよ忘年会シーズン。年末のお休みは、既にほぼ毎日飲み会の予定があって嬉しい限りです。一年で一番外食が多くなる時期、水戸のみならずいろいろな土地のお店探訪を続けていく所存です。皆様良いお年を!(鴻)

2 018年は(第九)日本初演から100年目の年。当時日本人に演奏できなかったこの曲を初演したのはドイツ人俘虜たちでした。MCO第100回定期演奏会の感動を思い出しつつ、100年の歳月の重みを感じる年末年始です。(篠)

同 い年の指揮者ということもあり、テオドル・クルレンツィスに注目している。昨年の「ドン・ジョヴァンニ」も凄かったが、今度出た「悲愴」にはさらに度肝を抜かれた。来年はベートーヴェンを振るらしい…(て)

シ ュリグリー展のカタログ校正を覗かせてもらった。「暗部にしまりを出す」など美術ならではの指摘が興味深い。読んだ瞬間、衝撃を受けたのが「壁面白さ出してください」…はい、壁に求めるべきは面白さではなく白さでした。(樹)

日 本近代音楽館で開催されたレクチャーコンサート「『グループ・音楽』の日々」に邪魔された。ケージの思想にも通じる偶然性を取り入れた伝説の集団即興演奏集団だ。その音源は今なお鮮烈さを失ってはいなかった。(中)

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴオ」
 2017年12月発行 第224号
 編集発行：水戸芸術館音楽部門
 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
 TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
 E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp